

【授業の到達目標および概要】

授業到達目標及び概要：①国連で採択され、世界の共通目標である持続可能な開発（SDGs）の概念と地球規模の健康問題・環境問題を理解、把握し、説明できる。②養護教諭として学校保健の中で多国籍化している現状に対応できる。③演習を通じて地域保健・地域栄養活動での国際的視点を持つことができる。

上記の目標に向けて、栄養学または保健学の幅広い視野に立って精深な学識を有する者、専攻分野における研究能力または高度な専門性を有する職業人として必要な能力を修得したと認められる者として、保健・医療と生活支援に関わる国際的な公衆衛生活動を進める上で必要な基礎概念と方法論について講義および演習を行う。

【授業計画】

- ① 概論：国際保健の潮流及び世界規模課題：プライマリーヘルスケア・ミレニアム開発目標・持続可能な開発、感染症を含む世界規模課題に関しての変遷に関して解説する。
- ② 各論：母子保健及びリプロダクティブヘルス：常に優先度が高く国際保健の課題として継続されている母子保健及びリプロダクティブヘルスに関して解説する。
- ③ 各論：諸問題の解決のために必要な保健システムとその強化に関して説明する。
- ④ 演習：ホンジュラスを対象として、母子保健・地域保健に関しての演習をする。
- ⑤ 各論：途上国における下痢症・肺炎及び正解的課題である三大感染症・公衆衛生的危機に関して解説する。
- ⑥ 各論：緊急災害や難民における健康・栄養問題に関して解説する。
- ⑦ 各論：これからの世界課題である高齢化と生活習慣病を解説する。
- ⑧ 演習：コンゴ民主共和国のエボラ出血熱流行
- ⑨ 各論：途上国における行動変容のためのアプローチを解説する。
- ⑩ フードシステム：人間の健康を育み、環境の持続可能性を公平なサポートする仕組みを解説する。
- ⑪ 演習：フードシステムを理解するための演習を実施する。
- ⑫ 各論：課題を理解するための社会的調査、情報収集を実習する。
- ⑬ 各論：プロジェクトをマネジメントするためのファシリテーションスキルを解説する。
- ⑭ まとめ：

【授業外学習】

資料の事前読込、終了後の復習

【成績評価の方法・基準】

- グループ協議への参加 40%
- 各演習課題に対するコメント 30%
- レポート（集中講義後2週間後提出）30%

【教科書】

特になし

【参考書】

- ・実践グローバルヘルス：現場における実践力向上をめざして（明石書店：2022）
- ・SDGを学ぶ 国際開発・国際協力入門（法律文化社：2018）
- ・食卓から地球を変える Can Fixing Dinner fix the Planet（日本評論社：2022）

【教材】

各講義に関する資料配布

【備考】

特になし